

# 協働によるまちづくり職員研修実施報告書

## 「協働のまちづくりについて」

講師：近畿大学総合社会学部教授

久 隆 浩 氏

### 開催日

平成30年11月2日 第1回 10:00～12:00  
第2回 13:30～15:30

### 開催場所

栗東市役所2階 第1会議室

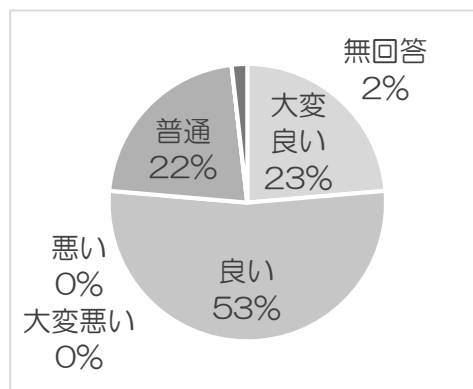
### 参加者数

第1回 34名 第2回 37名 計71名

## 職員アンケートより（55名より回答）

### ①研修の感想について

5（大変良い）…13人  
4（良い）…29人  
3（普通）…12人  
2（悪い）…0人  
1（大変悪い）…0人  
無回答…1人



### ②気づいたこと、わかったこと、発見したことなど

- ☞ファシリテーターというポストの重要性。ここでうまくいくかどうか分かれる。
- ☞日本は欧米に比べて NPO の地位、待遇がかなり遅れているということ。（逆に欧米では事業として成り立つこと）
- ☞改めて協働について整理することができました。

- △ネットワーク型で新たなつながりを作っていくことの大切さがわかった。
- △まちづくりという言葉の本当の意味がわかった気がします。
- △今後の行政のあり方について、さらに理解できた。市としてもしっかりとそのことを理解して動いていただきたい（わかってない人が多いと思う）
- △自発性を大切にすること、市が求めていること以外であっても自発的な動きを相手とともに。どのように活動や事業につなげていく手法。
- △ファシリテーターの役割として、輪の中心で率先して動くことが、その役割の1つとして考えていたが、そうではなく、輪の中の者のやる気を出すこと、その気にさせることがその役割であると気づかされました。ネットワーク型のまちづくりを進めた場合に、中心を担う者がいなくなると、それまでの活動が停滞、または後退する難しさがある。常に楽しさを見出す難しさがあると感じました。
- △自分の今の仕事にとっても役立つ話であった。
- △なぜ、協働が大切なのか、よく分かる研修でした。
- △ファシリテーターの活用が良くわかった。自発的に発言をさせる⇒賛成派・反対派の調整に気づかされた。
- △ファシリテーターという概念ができていたことを知りました。振り返ると友だち関係の中にもそういう役割にあてはめることができる人がいると思いました。やりたいことを楽しくできる事は重要であると思います。
- △再確認できた。しかも解りやすかった。
- △市民と関わることで、楽しさややりがいのある仕事になるだろうと思った。
- △ネットワークをつくることの大切さがわかりました。ひとりひとりが、主体者になれることが重要な視点。
- △ネットワークで社会を動かすことの大切さ。
- △たくさんの新しい若い方の試みを知ることができた。いつまでも階層組織リーダーに頼っていることは発展がないことを知れた。
- △行政はファシリテーターにならないといけないと思った
- △行政と地域との連携が、これからの業務では必要であると理解できたが、まだまだ栗東市にはこのような組織になっていないなと改めて思った。自分から何かを発信していく事により、他に影響を与え、大きな輪となりコミュニケーションが生まれる。発信する事の大切さを改めて感じた。

△発想の転換をすることの大切さと、楽しくやることの必要性に気づくことができました。

△太田先生の新書。自分自身がボランティアの現場に出向くことが大切なこと。ワークショップで見つかる事があること。

△楽しいことを一緒にやる。グループになった時に働くものとそうでないものがある。

△住民がやってみようと思えるような機械や場を設けると人が動く。

△色々な方と知り合って、楽しい事業が展開できればと思います。

△私たち世代（40代）は、社会に出たらリーダーになりなさい、なれるように努力しなさいと教育されてきました。これからの社会を動かすするには、考えを変えなくてはならないのでしょうか。

△集団1/5法則に納得する、賃金が発生する場面では…。協働のまちづくりについては理解できた。素敵だと思う。

△楽しくなければ続かない

△様々な切り口、ケースについて気づきを得られた。ファシリテーターの重要性について改めて考えさせられた。

△協働の必要性、他市での事例、キーとなる人の重要性

△元気人の巻き込み方の紹介をただけて良かった。

△主体的な参加…すべての仕事、会議、研修につながり、仕事のヒントをただけた。

△まちづくりは市役所主導ではなく、市民の自発性を高め、楽しみながらやっていく取り組みや仕組みが必要だと感じた。

△元気な市民を見つける。

△改めて行政の立ち居地、新しい公共での役割を認識できた。市民目線での活動と、課題の現場主義の必要性を改めて考えられた。

△どのようにして市民を自発的に動いてもらうかを考えようと思った。

△自分から、元気な市民さんの輪の中に入っていくこと。

△市民の中で、元気な人に出会う。そして、その人と一緒にまちづくりをする。市民に出会い、キーパーソンを見つける。

△行政のあり方、支援側としてのヒント。

△見えている相手だけでなく、探して引き込むことも大切。

△例で話されたような、ファシリテーターとしての能力があれば、冷静な対話ができることを再発見した。

△仕事などをつうじて、キラッと光る人と人間関係をつくる。

△改めて、協働の基本を見直せた。

### ③疑問、質問、わからなかったことなど

△市役所から外へ情報を求めに行くとき、自分の立場をどう考えるべきか、相手はどのように思うのか

△各部署が取り扱って情報を得たことが他部署に活用されていない。情報連携が少ない。

△NPOの活動はどのように立ち上げ、維持されているのかな。

△仕掛け方がわからない。

### ④自由にお書きください。講師へのメッセージもお願いします。

△話がわかりやすく良かったです。

△恥ずかしながら、ファシリテーターという言葉は知っていましたが、どのような役割なのか知りませんでした。今日はその重要性がよく理解できました。ありがとうございました。

△とてもわかりやすく、いい研修でした。ありがとうございます。栗東市にも既にいろんなコミュニティはあります。

△持続させていく中で大切にされていること

△若い職員にも受けて欲しい研修でした。ありがとうございました。

△必要な人を見つけるため、イスに座って待っているだけではダメだということがよく分かって良かった。

△時間が短かった。もっと聞きたかった。

△協働の基礎から、今の事例まで分かりやすく学ぶことができた。ネットワークをつくることは、市職員としての仕事だけでなく、それを離れた人生の充実にもつながると思いますので、これからもその視点を忘れずに仕事をしていきたいです。

△とても共感できるお話でした。私自身も同様の考え方を持ち、日々職務に当たっていますが、なかなか協働のまちづくりが進んでいないのがわがまちの現状です。こうした考え方を、市長をはじめとする幹部、市議会議員が共有することで、職員は動きやすくなるのではないかと？

△まちづくりについて、わかりやすく説明いただき、今後の業務の中で生かしていこうと思います。今の時代はひとりの発言で大きく変わる事がある事を発見でき、気づくことができ、とても良かったです。

△とても分かりやすく良かったです。

△地振協のあり方も見直さないといけないと思います。

△紹介されたようなまちづくりを実現するには、我々も含めて、市民のワーク・ライフ・バランスは大事かと思いました。

△よいおはなしだった。未来が明るくなると思えた…が、元気に見えても人前で目立つのは苦手な人もいます！？

△分かりやすく、良かったです。

△ありがとうございました。各地の事例紹介の時間をもう少し取っていただいても良かったです。

△「市民の声を聞く」ということを考えているところでした。ワークショップを考えてみようと思います。ありがとうございました。

△協働のまちづくり研修を毎年せず、ちがう研修をされてもよいのでは。

△自発的にやりたいことを、できる範囲ですることの受け皿さえあれば、若くて忙しい人でも活動につながる事が分りました

△年代で区切ってはいけないのですが…65才くらいの方はイヌ型とネコ型とのちょうど間くらいにおられるような気がします。「やってもらう」「やりたいことを支援する」両方がいるような気がします。